



再現しています。室町時代の様式を
た立ち姿は、素襖をまとった凜とし
烏帽子に素襖をまとった凜とし
に、身を清めた射手六人が入場。
れ松明の篝火が照らし出す射場
が始まります。陣幕が張り巡らさ
「大的始式」の見所である射的が
内が厳かな空気に包まれると
1月11日夕刻、栖林神社の境

第12代島主、種子島忠時が弓の
指南役として招いた武田筑後守光
長が1501年(文亀元年)、宮中
の御的始式を伝えたのがはじまり
と伝わる古式ゆかしい伝統行事
で、悪霊、災難などを清め、島内の
平安や無病息災を祈るものとして
始められたとされています。

島の文化として受継ぐ
風格と威厳のある行事。

次代に遺したい伝統文化

かごしまの 祭り

— 第5回 —



北側の壁や大的の後ろには、種子島家の
家紋であるミツウロコの陣幕がはられ
ている。神事後、師範役の掛け声で大
的始式が開始される。

直径5尺8寸(約175センチ
メートル)の大的までの射程は28
メートル。射手は2組ずつ、一人
三番六射まで続けられ、合計36本
の矢が放たれますが、最後の一射
は「満つれば欠くる」の戒めによ
り、師範役の「はずさつしゃれ」の
声に促され、的から離れた位置に
放たれます。500年もの歴史を
誇る荘厳な雰囲気の大的始式は、
鹿児島県の無形文化財にも指定
されています。

西之表市 大的始式

鹿児島に古くから伝わる
地域の祭りや伝統行事。
今回は種子島の西之表市で
行われる、「大的始式」を
ご紹介します。

【祭りの舞台】

栖林神社

開催日： 1月11日
住所： 西之表市西之表7597
交通： 西之表港から車で約5分。
または種子島空港から車で約30分。
駐車場： なし
TEL： 0997-23-3215
(種子島開発総合センター「鉄砲館」)

